

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション
代表取締役社長 福島 保

2009年～2011年 首都圏“待機児童”レポート

認可保育園への入園が引き続き困難な中、 母親の働き方により、認可外保育所や幼稚園などに預ける割合が増加

株式会社ベネッセコーポレーション(本社:岡山市)の社内シンクタンク「ベネッセ次世代育成研究所」では、2011年10月に、2011年4月に向け首都圏の認可保育園に入園申請をした母親967名を対象に、入園申請・結果・利用の実態、子育て支援へのニーズなどについてインターネット調査を実施しました。本調査は2009年から毎年、行っており、3か年の比較も行いました。主な調査結果は次のとおりです。

1. 認可保育園への入園は、2009年47.2%から2011年37.5%に低下している。3か年を通して、4月時点で子どもの預け先が決まらなかったために、仕事や再就職を断念した母親は5割を超えている(2011年は58.6%)。
2. 母親が「パートタイム・アルバイト」の家庭の幼稚園への入園割合がやや増加した(2009年1.4%→2010年3.5%→2011年8.6%)。
3. 2011年、保育施設について母親が重視している点は「通いやすさ」が最も多く、入園申請時点・現在とも80%を超えている。子どもを実際に入園させて、母親の重視点が最も増加するのは「保育内容・プログラム」で、36.4%から46.6%に変化しており、より内容面を重視するようになっている。
4. 2011年、「子どもを保育施設に預けることについての考え」は、「子どもが集団生活の中で必要なことを身につけられる」(97.2%)、「仲間がいる環境は、子どもの成長のためによい」(97.1%)といった子どもの成長のためが高く、次いで、「安心して働くことができる」(93.4%)とポジティブにとらえている。「(とてもそう思う)と「ややそう思う」を合わせた数値。)保育制度に対するニーズは、「保育施設の数・募集定員の増加(待機児童の解消)」が最も高く61.6%を占める。

3か年を通して行った母親を対象とした認可保育園の待機児童調査結果から、首都圏において、認可保育園への入園は十分には改善されていないことがわかりました。しかしながら、母親の働き方によって、認可外保育所や幼稚園などに預ける割合が増えています。その結果、どこにも子どもを預けていない割合は2009年に比べて減っています。幼稚園への入園が増えた背景には、幼稚園の預かり保育の充実(保育の長時間化)により、共働きの家庭でも幼稚園を利用しやすくなっていることがあると思われます。

子どもを保育施設に預けることについては、多くの母親が、「集団生活の中で必要なことを身につけられる」など、子どもが育つ環境としてのよさをあげています。自治体を中心に、預け先についての情報提供や、母親の働き方と子どもの預け先のマッチングを推進させることが、待機児童解消にさらなる効果をもたらすと言えます。

このリリースに関するお問い合わせ先

株式会社ベネッセコーポレーション 広報部(三田村, 坂本, 濱野, 西沢)

TEL 042-356-0657 FAX 042-356-0722

【 調査概要 】

名称	ベネッセ次世代育成研究所 子育てトレンド調査 第5回 「2009年~2011年 首都圏“待機児童”レポート」
調査対象	2011年4月の入園に向けて、首都圏の認可保育園に入園申請をした母親
有効回答数	967人 (2009年 720人、2010年 836人)
調査時期	2011年10月6日~11日
調査地域	東京・神奈川・埼玉・千葉
調査方法	インターネット調査
調査項目	保育園入園申請、利用の実態、申請に向けての情報収集や行動、保育料や補助の実態、保育施設について重要視していること、子どもを預けることについての考え、保育制度へのニーズ

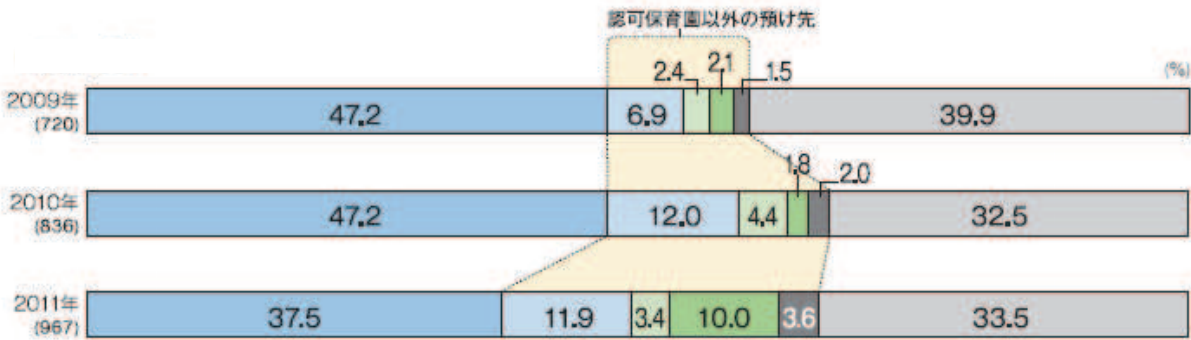
ベネッセ次世代育成研究所のホームページから、本調査の詳しいレポートをダウンロードできます。
レポートには、本調査監修の恵泉女学園大学大学院教授 大日向雅美先生のコメントも掲載しています。
http://www.benesse.co.jp/jisedaikin/research/research_21.html

.....データ掲載.....

1. 認可保育園への入園は、2009年47.2%から2011年37.5%に低下している。3か年を通して、4月時点で子どもの預け先が決まらなかったために、仕事や再就職を断念した母親は5割を超えている(2011年は58.6%)。

対象のお子さんについて、4月において入園・利用を決定された保育施設・サービスについて、あてはまるものをひとつ選んでください。

- 認可保育園
- 自治体の助成を受けている認可外保育所 (例: 東京都認証保育所、横浜保育室、小規模保育室など)
- その他の認可外保育施設
- 幼稚園
- その他
- 預けていない・利用していない



※「対象のお子さん」とは、(2009年/2010年/2011年)4月度に保育施設・サービスに入園・利用申請した子どものことを指す。対象の子どもが2人以上いる場合は、末子を対象とする。

※「その他」には、選択肢として用意した「市区町村の保育ママ」「認定こども園」「事業所内保育所」「ベビーシッター」「ファミリーサポート」を含む。

4月時点で預け先が決まらなかった人は対象のお子さんの保育を行うために、どうしましたか。

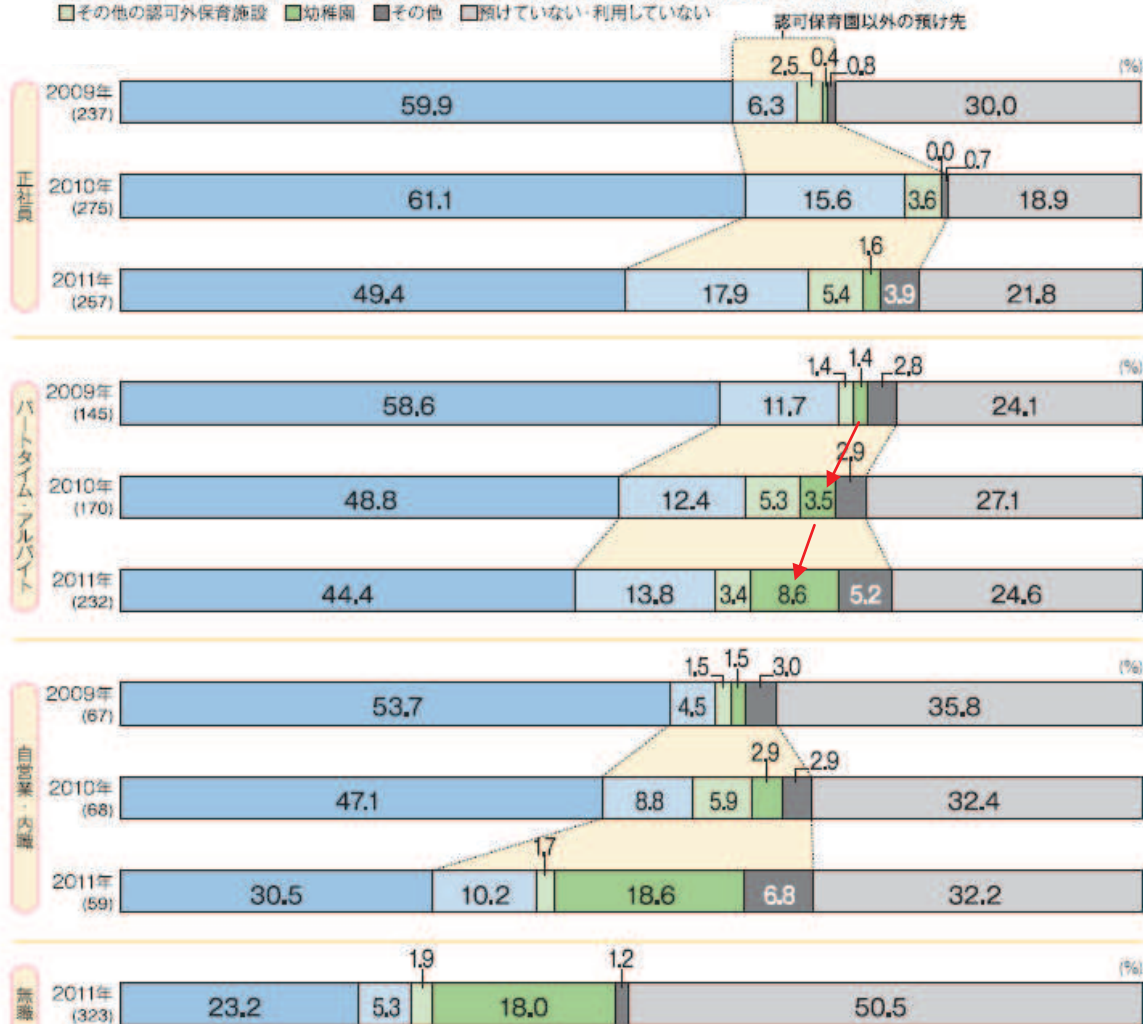
- 仕事、または再就職断念をやめ、自分で子どもの世話をすることにした
- 自分または配偶者の育児休業を延長し、子どもの世話をすることにした
- 祖父母・親戚に預かってもらうことにした
- 友人・知人に預かってもらうことにした
- その他



2. 母親が「パートタイム・アルバイト」の家庭の幼稚園への入園割合がやや増加した(2009年 1.4%→2010年 3.5%→2011年 8.6%)。

4月において入園・利用を決定された保育サービスについて、あてはまるものをひとつ選んでください。

認可保育園
 自治体の助成を受けている認可外保育所 (例: 東京都認証保育所、横浜保育室、小規模保育室など)
 その他の認可外保育施設
 幼稚園
 その他
 預けていない・利用していない

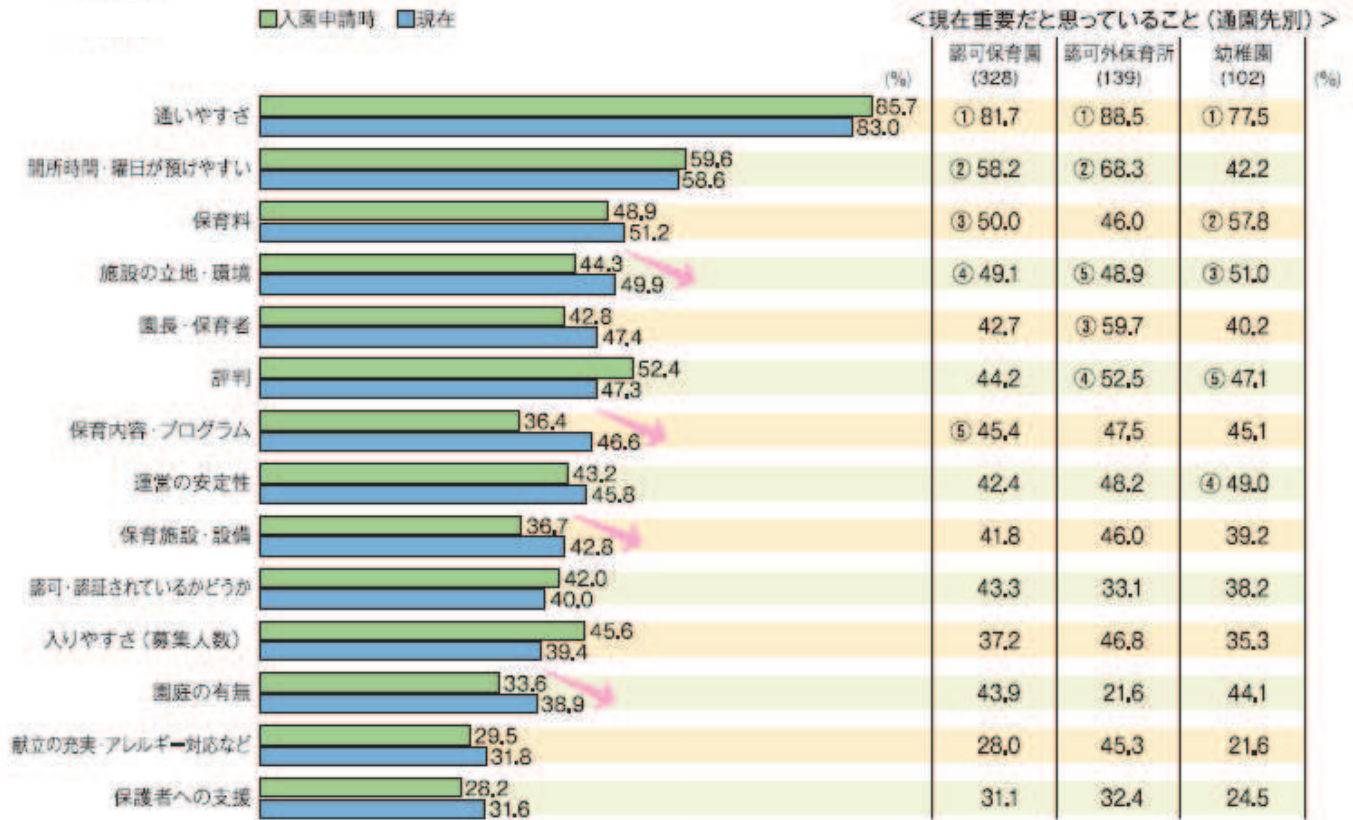


※自営業・内職は、「自営業・家族従業」と「内職・在宅ワーク」を合わせて分析。(サンプルが少ないため参考値)

※「その他」には、選択肢として用意した「市区町村の保育ママ」「認定こども園」「事業所内保育所」「ベビーシッター」「ファミリーサポート」を含む。

3. 2011年、保育施設について母親が重視している点は「通いやすさ」が最も多く、入園申請時点・現在とも80%を超えている。子どもを実際に入園させて、母親の重視点が最も増加するのは「保育内容・プログラム」で、36.4%から46.6%に変化しており、より内容面を重視するようになっている。

保育施設について、入園申請時に重要だと思ったこと/現在、お子さんを預ける場として、重要だと思っていることについて、お気持ちにもっともあてはまるものをひとつ選んでください。



※「とても重要」と回答した割合。

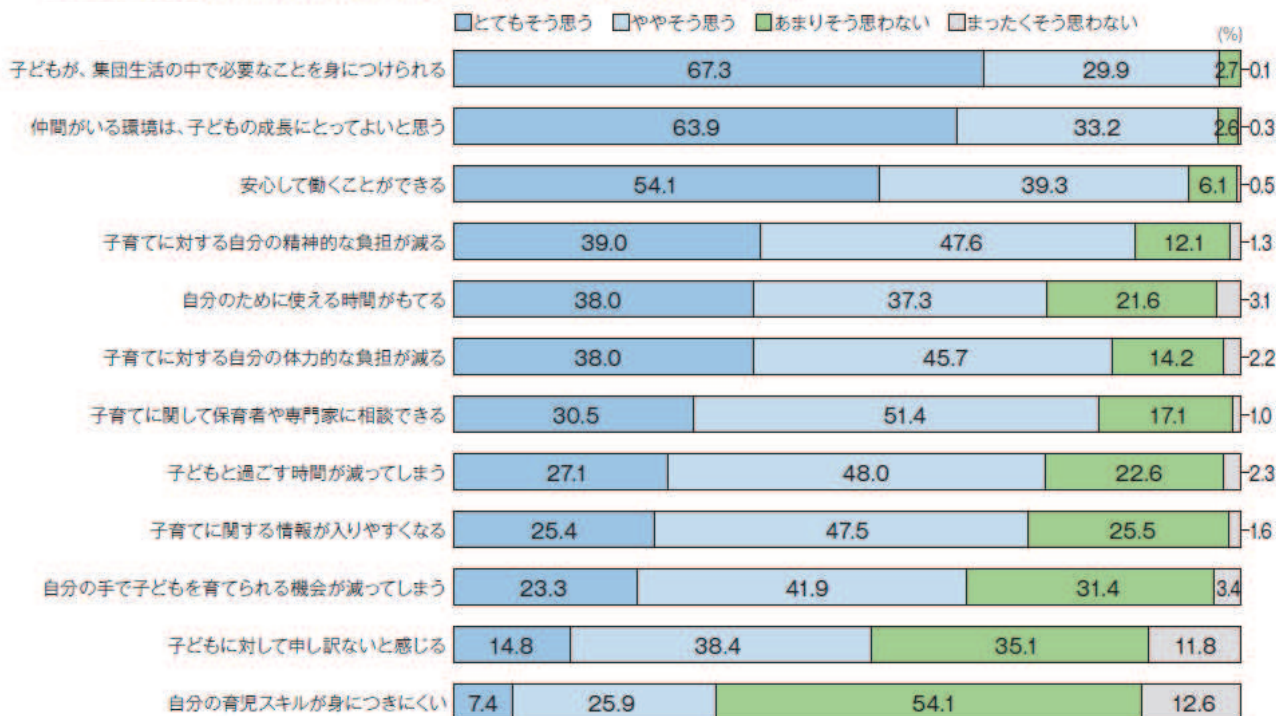
※調査時点（現在）、子どもを保育施設・サービスに預けている母親（607人）。

※「認可外保育所」は、「自治体の助成を受けている認可外保育所」「その他の認可外保育施設」通園者を合わせて分析。

4. 2011 年、「子どもを保育施設に預けることについての考え」は、「子どもが集団生活の中で必要なことを身につけられる」(97.2%)、「仲間がいる環境は、子どもの成長のためによい」(97.1%)といった子どもの成長のためが高く、次いで、「安心して働くことができる」(93.4%)とポジティブにとらえている。(「とてもそう思う」と「ややそう思う」を合わせた数値。)
 保育制度に対するニーズは、「保育施設の数・募集定員の増加(待機児童の解消)」が最も高く 61.6%を占める。

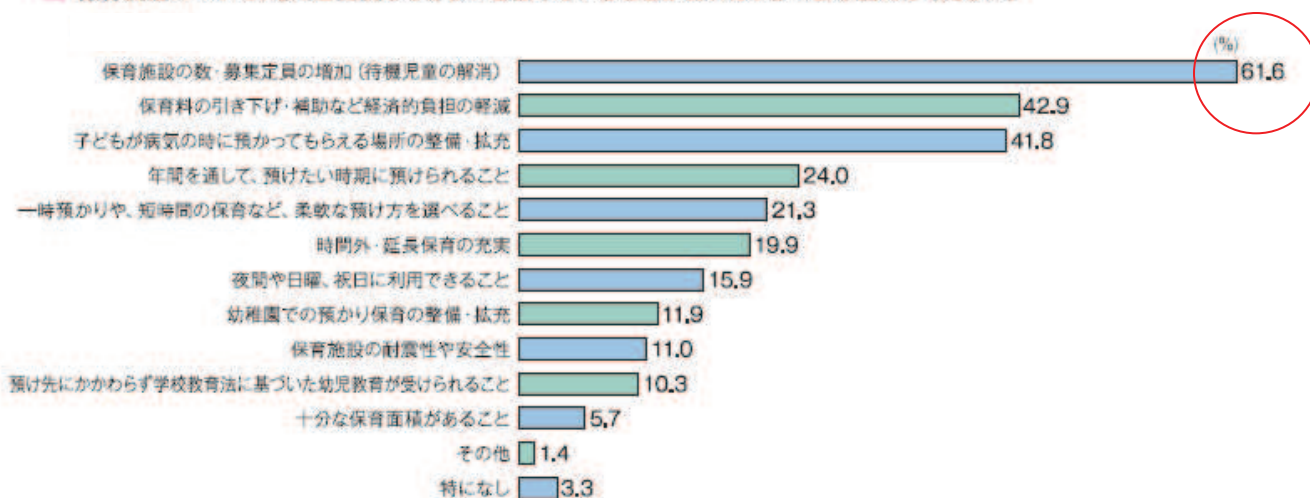
●子どもを保育施設に預けることについての考え●

Q お子さんを保育施設に預けることについてのお考えをおうかがいします。



●保育制度に対するニーズ●

Q 保育制度について、もっと充実してほしいと思っていることがあれば、3つまで選んでください。



【ベネッセ次世代育成研究所】

日本では少子高齢化、核家族化、女性の社会進出等、社会環境の変化が加速し、家族のあり方や親子関係を含めた子どもの育成環境に大きな変化が起こっています。このような中、ベネッセ次世代育成研究所は、個人や家族の生活視点を大切にしながら、子どもや家族が「よく生きる」ための調査研究を行っています。

■ホームページ■

<http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/>

※ホームページからも本調査結果をダウンロードできます。

【子育てトレンド調査について】

ベネッセ次世代育成研究所では、妊娠・出産・子育て・幼児教育に関して現在注目すべきテーマを取り上げ、インターネット調査を行いレポート発信していきます。第5回として、「2009年～2011年首都圏“待機児童”レポート」をお送りしております。